

杉並ユネスコ協会との 「広島スタディツアー」20年をふりかえって

杉並ユネスコ協会青年部の広島平和学習旅行（広島スタディツアー）は1999年から始まり、2018年3月に20回を迎えました。20年前に杉並ユネスコ協会の板倉徳枝現副会長および活動に熱心なスタッフらが中心となり「青年たちへの平和教育」を企画したことから、この交流は始まりました。

広島ユネスコ協会は「青年たちへの平和教育」に全面的に協力し、毎年3月に「被爆体験講話」「広島放射線影響研究所見学」「若者間の意見交換会」などを企画し、杉並ユネスコ協会の青年と平和学習を重ねてきました。

杉並ユネスコの青年たちは、学習の成果や感想をまとめ、毎年報告書を作成し、翌年へと繋いでいます。



【20年のあゆみ】（参考・引用：広島ユネスコ協会設立40周年記念誌）

1999年（第1回）約20名が来広

広島平和記念資料館、原爆ドーム等により平和研修

2004年3月29日～30日（第6回）12名来広

高橋昭博副会長（元広島平和記念資料館館長）の講話 亀井理事他が出席

2005年3月27日～（第7回）

「7年目のヒロシマ・スタディ」と題して、杉並ユネスコ協会・板倉徳枝理事が広島ユネスコ40周年記念誌へ寄稿

2006年3月28日～31日（第8回）

高橋副会長の講話、広大附属高等学校ユネスコ班と同校の藤原先生も交えて意見交換会

2007年3月28日～29日（第9回）21名来広

高橋副会長の被爆証言を聴いた（広島市平和文化センターにて）

2008年3月28日～（第10回）23名来広

10周年記念式典「杉並ユネスコ青年広島訪問10周年記念の集い」を、平和記念資料館において秋葉忠利広島市長と杉並区長夫人を招き、開催した。

杉並ユネスコ協会の青年は10年間の軌跡を発表、パネルディスカッションを行い、写真や文書も館内に展示し、関係者、市民を含めて75名の参加があった。この10周年記念の集いの模様は、報道機関数社を通じて報道された。

1999年から始まった杉並ユネスコ協会青年部「広島スタディツアー」は、2日間の広島滞在で「平和記念資料館見学・平和記念公園碑めぐり・被爆体験講話・宿泊所での意見交換会・本川小学校・袋町小学校被爆現場見学・江田島術科学学校教育館見学・宮島世界遺産の学び」の定番コースを積み重ねて10年の節目を迎え、この間150名の青年を受け入れた。

2009年3月28日～30日（第11回） 19名来広

平和記念資料館見学と高橋副会長の講話でヒロシマを学習、夕刻から広大附属高等学校ユネスコ班5名と合流し“定宿”の広島市国際青年会館で夕食の調理と食事を共にし、夜の交流会では活発に情報交換。

2日目は、袋町小学校平和資料室、平和記念公園碑巡り、お好み焼き作り体験会食、厳島神社、江田島術科学校見学などツアーを満喫。

2011年3月28日～31日（第13回）

平和記念資料館を見学、第1回から毎年続けた被爆体験講話を通して高橋副会長は、「平和のメッセージ」を青年たちに届けた。（第13回が高橋氏の最後の講話となった）「毎年工夫を凝らして語られる高橋氏の講話に、いつも感動している（訪問7回の青年談）」

翌日は平和記念公園碑めぐり、本川小学校被爆資料と中国管区司令部跡を見学。旧日本銀行広島支店3階で折り鶴展を見学。30日は広島港から宮島へ渡り、江田島で術科学校も見学。

2012年（第14回）

北川会長が被爆体験講話。平和記念資料館見学、広大附属高校生・鈴峯学園高校生・広島ユネスコ会員が参加し、お茶で交流会。翌日は平和記念公園、本川小学校見学、お好み焼き作り体験会食。

2013年3月25日～28日（第15回）

平和記念資料館において「広島訪問15周年記念・ヒロシマの集い」を開催し、平和文化センターのステーブン・リーパー理事長が「明日へのメッセージ 今、ヒロシマから」を記念講演した。翌日は「被爆電車の体験乗車」「比治山めぐり」「広島放射線影響研究所見学」。

2018年3月25日～28日（第20回）

第20回の節目に当たり、20周年記念式典が開催された。

藤原理事の司会により、杉並ユネスコ協会青年部からドイツ人生徒が「ドイツの戦後教育」、リピー参加者が「広島平和学習を経験した感想」を話し、広大附属高校生は「被爆地広島から平和についての思い」を発表して、共感しながら互いの意見を交換し合った。



広島ユネスコ亀井会長が歓迎挨拶



杉並ユネスコ朝倉顧問がお礼挨拶



杉並ユネスコから広島ユネスコへ感謝状贈呈



広島ユネスコ高橋会員が杉並ユネスコ青年部へ千羽鶴贈呈



若者間の意見交換会（藤原理事司会）



杉並ユネスコよりドイツ人がスピーチ
「ドイツの戦後教育」

（平和・世界遺産部会 前田ひろみ理事）